



生徒指導部から（1年生へ）

==未来の花を咲かせるために==

2026年5月22日

総体予選が佳境を迎えています。多くの部活動生、特に3年生は、ここで勝つことを目標にたくさんの時間を費やしてきました。その目標を掴むための努力の中で、学んだことが数え切れないほどあるはずです。困難を克服すること、苦境に立ち向かう姿勢、諦めない心、努力する力・・・部活動の目標への歩みはいつか終わりますが、人間性を高めるといふ部活動の目的に対する成果はこれからもずっと試されます。あなたたち1年生の高校生活はまだ始まったばかり。頑張ってきた上級生をお手本に、部活動や資格取得に大いに頑張ってもらいたいと思います。高校生活でたくさんの苦楽を経験し、何よりも自分が自分の一番の応援団となって、それぞれの目標に向かって努力し続けられるかっこいい人に成長してください。

## 大人になろう・・・「自己虫」を退治

子どもから大人への成長の度合いは、「我慢できるかどうか」で計られる。

小さな子どもは「自分の立場」という感覚がないから、  
自分の感じたことをそのまま表現してしまう。

欲しいものを買ってもらえず、お店で泣いている子ども。  
遊んでいるおもちゃの取り合いから大げんかを始める子ども。



あなたたちはさすがにこんなことはないでしょうが・・・。  
小学校から中学校、そして高校へと所属する集団の中でいろいろな経験を積みながら、自分の置かれている立場を理解し、それに応じた言動ができるようになってきました。  
**自分のわがままだけに心を支配されず、いろいろなことを我慢しながら行動し、周りの人に気を配り、心を繋ぐ。**それが成長するということ。

よく考えてみると、授業態度や頭髪、交通マナーなど指導を受けることはぜんぶ、  
**自分のわがままな心が我慢できずに形として表に出てきたときに起こっている。**  
それはとても恥ずかしいこと、**弱虫のすること**だと気付かなくてはならない。

もう高校生・・・あっという間に社会人となって、すぐに大人として扱われる。  
そのことを十分理解して、高校生活を自分を成長させるために過ごしてもらいたい。

そこで、こんな話。

自己虫という虫がいるそうだ。人の心に寄生する。  
何ごとも自分中心にしか考えず、まわりのことなんて気にしない。  
周りの人がどう思っているかなんて考えない。  
気配りなんてしない。わがままそのものである。



一時期「子ども」という言葉が使われた。  
大人になれない大人、つまり自立、自律できない大人のことを指している。  
常に誰かに依存していないと生活できない。叱られないと間違いに気付かない。  
うまいかないと、「～してくれないから」とか「あいつのせいで・・・」と言っている。

きっとキラキラ輝く才能を持っているはずなのに。  
才能は、ほっておいても発揮されるものではない。  
鍛えられ、磨かれて、はじめて本当の光を放ち始める。

自己虫という虫に心を侵されている人は、  
自分の才能を磨き鍛えることができなくなってしまふ。  
自分を磨き鍛えるためには、謙虚さと誠実さが必要なのだ。  
自己虫は我慢しないので、謙虚さと誠実さを食いつぶしてしまう。  
自己虫は、まわりに迷惑をかけるだけでなく、自分さえもだめにしてしまう虫なのだ。



周りに気を配り、他人を大切に思える人になろう。  
それは巡り巡って、自分を周りから大切にされる人にしてくれる。

そんな素敵な大人になるために自己虫（心の中の弱虫）は今すぐ駆除しておこう。